

大麦管理情報 (第1号)

令和7年10月31日
農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

- 平均気温は、9月が25.6℃（平年差+2.8℃）と平年に比べかなり高かった。
- 10月は、平年に比べ上旬が21.8℃（同+2.7℃）、中旬が20.0℃（同+2.9℃）とかなり高く、5半旬が14.0℃（同-1.6℃）とかなり低かった。

(2) 降水量

- 降水量は、9月が371.0mm（平年比170%）と平年に比べかなり多かった。
- 10月は、平年に比べ上旬が28.0mm（同52%）と少なく、中旬が163.0mm（同287%）とかなり多く、5半旬が3.5mm（同12%）と少なかった。

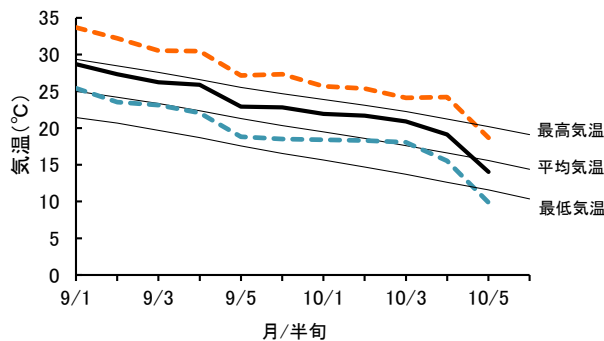


図1 9～10月の気温の推移 (R7 富山地方気象台)

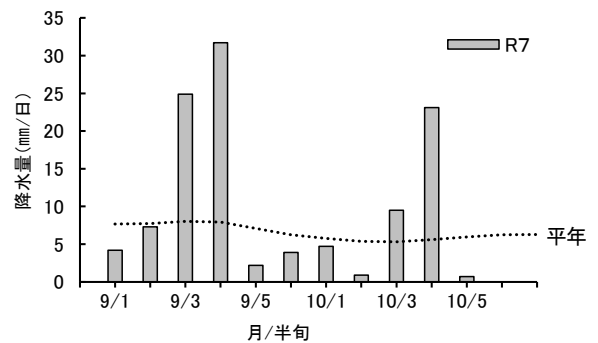


図2 9～10月の日降水量 (富山地方気象台)

2 生育概況 (生育観測ほ等データ)

- 播種日は、10月9日（9月27日～10月24日）と平年に比べ3日遅く、播種がかなり遅いほ場もあった。苗立数は、145本/㎡と平年に比べ少なく、一部ほ場では目標比べかなり少なくなった。
- 平年に比べ、草丈はやや短く（平年比94%）、茎数は少なく（同比84%）、葉齢は並、葉色はやや淡く（平年差-2.5）になっている。

表 大麦の生育状況 (10月31日)

年産	播種日 (月/日)	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
				(本/株)	(本/㎡)		
8年産	10/9	145	20.1	1.8	264	3.5	36.1
7年産	10/2	169	29.1	2.3	391	4.6	38.4
平年	10/6	174	21.4	1.8	313	3.4	38.6

注1) 調査ほ場数10（ただし、2か所は調査未実施のため調査結果は暫定値）、播種様式はすべてドリル播き

注2) 平年はH28～R7年産の平均

3 当面の技術対策

(1) 排水対策の徹底

- 降水量が多く、水が停滞しているほ場が多くみられる。今後、茎数を確保し、葉色の低下を防ぐため、早急に排水対策を実施し、排水を徹底する。
- ほ場ごとに、排水溝の崩れや排水口への連結、排水口の掘下げ状況等を点検し、随時手直しを行い、排水に努める。

(2) 分施肥体系の年内追肥による茎数の確保

- 基肥窒素は、播種1か月後には大麦の吸収や溶脱により土壌中の残存量が少なくなるため、播種1か月後頃に、窒素成分で10a当たり4kgを目安に追肥する。